ネポン株式会社

1974年、ネポン株式会社の取締役会は、ネポン株式会社の株式を6月10日に東京証券取引所第2部市場に上場することをすでに決定していた。このため、一般募集についての払込期日を5月31日に、売出し分の株券受渡期日を6月1日に、そして、そのための申込期間を5月17日より5月21日までにすると内定していた。一方、発行価格および売出価格については4月上旬に250円と一応暫定的に決めていたものの5月8日に開かれることになっている取締役会において株式市場の動向等を考慮した上で正式に決定することになっていた。

会社の概要

1948年6月、福田公雄社長は東京都世田谷に資本金1百万円で熱ポンプ工業株式会社を設立した。この会社を設立する以前、福田社長は1928年に東京帝国大学工学部機械工学科を卒業後、日立製作所で20年間にわたって機械の設計，製作に従事し、日立工場機械設計課長等を歴任していた。しかし、1948年3月には病気のために日立製作所を退社することになった。当時、福田公雄氏は45才であったが、退社後は技術関係の能力を活かせるような仕事で独立しようと考えていた。(注) 最初に茨城県日立市において着手したのは浴場経営と製氷業であった。この組合せは「水から熱を奪って氷とし、奪った熱を水に加えて湯とする」という機械工学的発想にもとづいたものであった。しかし、経営面において円滑な出だしとは必ずしも云えなかった。例えば、製氷工場の建設にあたっては当時の復興金融公庫から1.8百万円をうけて3百万円の工場を建設し、それが過大設備となって返済に苦労したこともあった。また、火災保険に救われたものの火災という災害も経験していた。しかし、1949年10月には東京都渋谷区円山町において製氷と給湯を同時に行なう熱ポンプ設備を完成して渋谷温泉と製氷工場の営業を開始した。

1950年8月には浴場と製氷工場を経営するかたわら、技術コンサルタント業務をも始めることにした。この頃から、福田社長は「技術力によって経営を推進する」という会社の基本方針を確立していた。ところが、コンサルタント業務を始めてはみたものの、日本では知識や技術に対してお金を払うという習慣があまりなかったので「いくら仕事があっても肝心のお金が入ってこない」有様であった。そこで、福田社長は「知恵」を商品に付けて売らなければならないと考えるようになってきていた。まず、この頃から大手ビル冷暖房工事という分野にも進出することにした。

（注） 近代経営編集部「来たるべき"水戦争"を先取りしたネポン㈱」『近代経営』（1973年7月） P.67

このケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールにおけるクラス討議の資料として用いるために同ビジネス・スクール助教授鈴木貞彦が作成した。このケースはネポン株式会社の「新株発行並びに株式売出目論見書」「同目論見書の訂正事項分」「新規上場会社紹介（〔証券〕1974年7月）」等の外部資料によって作成したものであり、経営管理上の適切または不適切な処理を例示しようとするものではない。なお作成者の許可なしにこのケースを使用することは出来ない。
（1978年7月改訂）